地域の宝「めでたや」を歌いつぐ「大師古民謡保存会」

▲令和５(2023)年４月22日
東海道川崎宿起立 400 年記念「東海道 川崎宿場まつり」

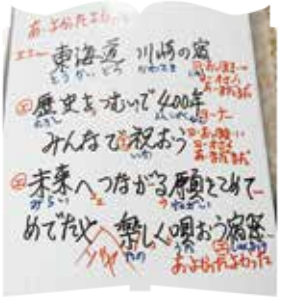
「ア～良かった 良かった おめでとうございます！」と歌って結ぶ、大師地区に幕末から伝わる古い民謡をご存じですか。婚礼や新造船の船卸(ふなおろし：進水式)、建前などのお祝いで歌われてきたその唄は、その名も「大師めでたや節」。なんとも幸せな響きです。

『大師古民謡保存会』は、この唄の魅力を郷土愛とともに未来へ歌い継ぐ活動をしています。伊藤三郎川崎市長の時代に、地元の民俗芸能を保存しようという機運が高まり、藤崎地区の松原時之助さんが初代会長となって保存会が発足し、松原さんの屋号をとって「亀堀会」としました。川崎市民俗芸能保存協会に登録する際に『大師古民謡保存会』とし、現在会長の田辺裕之さんは４代目、８名の会員で活動しています。大師駅前商栄会「ごりやく通り」にある稽古場で、小学校の出前授業後の皆さんにお話を伺いました。

大師めでたや節ってどんな唄？

昔から、多摩川対岸の羽田地区と大師の間では嫁入りによる交流が盛んに行われ、祝い唄として「羽田節」がよく歌われていました。川を越えて伝わった羽田節は、「大師節」や、歌詞の一部から「おせど節」「めでたい」と呼ばれ、現在では「大師めでたや節」「めでたや」と呼ばれるようになったと言われています。

羽田の漁師が川崎に来た時、羽田節の「羽田ではやるお穴さま(穴守稲荷神社)」を「川崎ではやる大師さま」と替えて歌ったことから、大師地域では替え歌を作って楽しむようになったとのことです。お祝いで車座になって酒を酌み交わしながら、手拍子に合わせて独唱し、歌い終わったら次の人へと、一晩中歌い続けて楽しむ祝い唄。厳格な決まりはなく、歌い方や節回しが人によって少しずつ違って、個性的なところに味わいがあります。戦後唄う人が減ってしまったのは、戦争で唄どころではなかったこともあるようですが、式場で結婚式を行うようになり、車座での宴席が少なくなったからだという説もあります。



▲川崎宿起立 400 年を記念して保存会が作詞「川崎宿 400 年のうた」

大人も子どもも達成感！小学校出前授業

平成 19（2007）年、川中島小学校創立 70 周年の時に同小卒業生の田辺会長に声がかかり、当時の６年生に「めでたや」を教えることになりました。子どもたちのほうから「僕たちも歌詞を作ってみようかな」と言い出し、自分たちで作った歌詞を古民謡の調べに乗せて 70 周年を祝いました。これをきっかけに、川中島小学校、藤崎小学校、大師小学校で３年生に向けた出前授業が始まりました。子どもたちは５～６回の授業の中で古民謡を学習し、オリジナルの歌詞を作詞して、発表会で元気よく表現します。最終日には修了証を全員に授与。それぞれの名前が入った修了証を見て、子どもたちはとびきりの笑顔となったそうです。

「子どもたちに覚えてもらうと、将来芽が出て花を咲かせる希望が持てます」と会員の井上さん。松本さんも、「みんなでアルバムを見たときに、『こういうのがあったね』と掘り起こしてくれれば、後世に伝わっていくんじゃないかな」と期待を込めて話していました。

たくさんの方に聞いてもらい、魅力を伝えていきたい

「『めでたや』は、明るく前向きな歌詞なので、積極的に地域のお祭りやイベントに出て行って、歌っていきたいです。それが古民謡として広がっていけば嬉しい」と中村さん。多摩川スカイブリッジ開通時には前日イベントで歌い、昨年の川崎宿起立400年「東海道川崎宿場まつり」では、「川崎宿400年のうた」を作って多くの来賓の前で歌いました。コロナ禍前は毎年若宮八幡宮夏祭りで歌っていましたし、今年になってからは２月の福徳稲荷大祭・午(うま)まつりで川中島小学校の３年生と一緒に「めでたや」を歌い上げました。

▲稽古場で美声を響かせる（左から）中村さん、松本さん、田辺会長、井上さん

田辺会長は、「どこかの集会所を借りるのではなく、拠点となる稽古場があることが私たちのウリです。現在、新入会員を大募集しています！！」と声を大にしておっしゃいました。自然に口角が上がってしまうような明るい祝い唄、「大師めでたや節」の継承に力を注ぐ大師古民謡保存会。きょうも稽古場に明るい歌声が響きます。

♪ア～良かった 良かった おめでとうございます♪

■大師古民謡保存会
会長　田辺　裕之
電話　044-288-5865　　FAX　044-288-5909